

令和7年度 第2回神奈川県立生田高等学校学校運営協議会結果

本校の学校運営協議会を次のとおり開催した。

| | |
|--------------|---|
| 審議会等名称 | 神奈川県立生田高等学校学校運営協議会 |
| 開催日時 | 令和7年10月17日(金) 15時35分～16時35分 |
| 開催場所 | 神奈川県立生田高等学校 小会議室 |
| 出席者 (役職名) | <p>学校運営協議会委員</p> <p>米山 福吉 (多摩区長沢地区自治会長) 原山 修 (多摩区長沢商店会長) 秋山 香志 (川崎市立生田中学校長) 菅原 隆宏 (川崎市立東原小学校長) ※所用のため欠席 深澤 倫子 (明治大学理工学部教授・応用化学科) ※所用のため欠席 脇本 健弘 (横浜国立大学教職大学院准教授) ※所用のため欠席 山内 みずき (本校PTA会長) 野田 麻由美 (本校校長)</p> <p>本校職員 杉山 崇裕 (副校長) 真中 恭子 (教頭) 儀丹 伸喜吉 (事務長) 鯨岡 剛 (総括教諭・研究開発Gリーダー) 牧野 篤敬 (総括教諭・管理・運営Gリーダー) 曾根 健吾 (総括教諭・研究開発Gリーダー) 長谷川 佳代 (記録・管理・運営グループ) 花島 耀平 (記録・管理・運営グループ)</p> |
| 次回開催予定日 | 令和8年3月4日(水) 14:30-16:00 |
| 問合せ先 | 担当者名 神奈川県立生田高等学校 管理・運営G 電話番号 044-977-3800 F A X番号 044-976-9398 |
| 審議(会議)経過 | <p>開会 (教頭)</p> <p>開会 (副校長) ○学校運営協議会の成立について 「神奈川県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条2により、過半数の出席があるため、成立とする。</p> <p>Ⅰ 校長挨拶 お忙しいところの参加に感謝する。 挨拶に代えて学校の様子を、特に新しいところをピックアップして説明する。 以下、PowerPoint 資料とともに説明を行った。</p> <p>生田高校はDXハイスクールに指定され、予算の増額などもあり教室整備などを行っているところである。本校はSSHに指定されることを目標としており、達成に向けて取り組んでいるところである。教育課程の編成もその一つである。取組の一つとして、次の入学生からは、理数探究を5単位として実施していく予定である。 探究をしっかり行い、分析を通して考えを深める授業としていきたい。併せて川崎市多摩区とも連携しながら、活動に取り組んでいく予定である。</p> |

グローバル人材の育成について、本校は姉妹校がなかった状況であるが、オーストラリアのキーラ高校と姉妹校提携を行った。来年度は相互交流を予定している。

また現在、探究の成果を発表しているところである。

菅生中学校での説明もその一つである。探究を行うだけで終わるのではなく、成果の還元もしていきたいところである。

2 協議

(山内みずき会長より自己紹介)

(1) 新科目「理数探究基礎」と今後の探究活動について
はじめに、理数探究基礎の授業について、また今後の活動について担当より説明いただく。

(担当教員より)

今回の授業のポイントは、プログラミングを行うことではなく、結果を受けて、なぜそのようになるのかを考えることである。データやヒートマップの数字と色が変わることで生徒の目を惹くことができ、ディスカッションを促すことが可能である。次回は今回の結果を受け、生徒同士で議論をする予定である。

(担当グループより)

本校では今年度から理数探究基礎という科目を開講している。今後は地元の大学や企業と連携して、卒業後の社会に活かせる資質の育成を目標としている。目指すところは探究的な視点を教科横断的に使用し、多角的・論理的な力を伸ばしていくことである。

外部機関との連携も大切にしていきたい。本年度では STEAM サイエンスセミナー、サイエンスツアーを実施し、年度末までも予定している。今後も大学、企業との連携を通して、生徒の興味・関心を高めていけるプログラムを整備していきたい。

(授業見学の感想・質問について)

委員からの質問、感想と担当からの回答を行った。

- ・できる子、できない子どもどちらも話し合っていて活動していた。
- ・良い雰囲気であった。協力的な雰囲気で作業を行っており、考察などにも意欲的に取り組んでいた。大きなモニターも活かし、班で探究的な活動であった。
- ・生徒たちは楽しそうに取り組んでいた。

- ・グループ分け、相談などあまり事前の説明をしなかったことに対してはなにか意図があるのか？

また結果の撮影をなぜ PC ではなくスマートフォンでやっていたのか？

→グループ分けには意図はなく出席番号でやっている。

班で自由に意見を言わせる形を取った。

写真は手近なスマホで取り慣れているからではないか。

- ・Python (パイソン) を動かす PC が班に 1 台であったことの原因はあるのか。

→予算的に 10 台しかなく、プログラムを動かすには高いスペックが必要である。さらに台数を増やしたいが予算的に難しい状況である。

- ・指導体制について、この内容を教えられる人数は足りているのか？

→現状不足している。今後増やしていく予定である。

- ・授業内容に対して、社会人や企業のサポートは今後ありえるのか。

→予定を綿密に立てる必要があるため難しい。

(2) 学校評価「令和7年度学校目標」に係る中間評価資料「令和7年度 学校評価報告書（中間報告）」に基づいて報告を行った。

(研究開発グループより)
学習過程について

毎年授業評価を実施している。各教科で改善点を3月に挙げ、毎年実施しているところである。低評価を出している生徒の割合は、減少傾向である。

DXの活用について

ICT教室の整備を行っているところである。デジタル機器を使いながら、協働的な授業、学習の定着に努力している。

進路支援について

ルーブリック評価なども導入し、適切に評価している。

(学習支援グループより)

授業評価、時間割の作成、行事予定の作成を行っており、来年度において取り組んでいるところである。

(生活支援グループより)

自転車について、スマホの使用について、生徒の悩みについてを主にグループで扱っている。

交通事故については、百合丘との合同交通安全運動もあり、大きな事故にはつながっていない。

ヘルメットの着用の指示などは今後も指導していく。

スマホ使用について、長時間使用は睡眠時間の減少にも影響するため、遅刻指導と併せて指導していく。

いじめについては、サポートドックの導入もあり、発生していない。

(進路支援グループより)

2、3年生は総合的な探究の時間となっている。明治大学とも連携しながら深い学びを実現している。

6月には面談週間を実施し、生徒と教員がしっかりつながっていけるよう活動している。

(生徒活動支援グループより)

SSHの申請、理数教育の推進に向け、地域とも連携しながら活動している。最近の活動では、地域貢献活動を行っており、今後も商店街など地域とも連携して活動していきたい。

(管理・運営グループより)

オフィス改善、DX化などの支援を行っている。各教室へ電子黒板の設置も今後予定している。SSHに関しては、1人1台端末や教室整備などで学校が動いているところである。管理運営としては予算の管理などで支援していくところである。

(意見交換)

- ・長沢フェスタが11月に予定されている。放送部にはいつも協力していた
だいているため、今後とも協力していきたい。
- ・今後、自転車の罰則が強化される。ルールの周知や指導を学校でしっ
かり行ってほしい。
- ・(校長挨拶にあった)多摩区との連携とは具体的にどういったものか。
→地域の課題を明確にし、生徒が課題を考え、解決していく活動を大
切にしている。そのために、生徒が地域の課題を正確に認識できるよう、
実態としての課題を区から伝えていただいている。

- ・各グループの取り組みによって、4月と比べて生徒の良くなった変化はあ
るのか。

 - サイエンスツアーやセミナーを行い、理数教育に対する生徒の
興味・関心が文理型問わず向上している。

 - また理数探究基礎では、生徒の見方や考え方が変わっていることを
実感する。今後も伸びていくことを期待したい。

 - 科学部のアラスカでの発表は、他の生徒の刺激になっているようで
ある。大きな大会に向けたモチベーションになっている。

(3) その他

次回の学校運営協議会の日程について

3月9日という連絡をしていたが、3月4日に予定変更した。

本日いただいた貴重なご意見は、今後の活動に活かしていきたい。
アラスカでの発表についても、地域の方々の協力なしには実現できなかつ
たことである。今後も連携していきたい。

3 閉会の言葉

(会長山内氏より)

多くのことが学校で進んでおり、感銘している。

今後もよりよい学校になっていくと良いと思っている。

以上で第二回学校運営協議会を終了する。